

今ノ複雑ナル國際場裡ニアリテハ自ラ皇道世界共榮ヲ旗印ニセサルヲ得サル筈ナリ。然ラハ八紘
一字ヲ廻ル日本聖戰ノ立論ハ何等縁遠キモノニ非ス、却ツテ最モ手近ニ立論サルヘキ、日本聖戰
學ノ一大項目タリ

備考

日本聖戰學カ何人ノ手ニヨリテ樹立サルルヤハ知ラサレトモ、日本國防通學ノ樹立者ト密接ニ連
絡ヲ取ラサル可ラサルハ云フヲ俟タス。スケールヲ大ニ取ルヘキコト、高邁ナル理想ノ描寫ナレ
ハ、最高智能ノ集成ヲ必要トスヘシ。

四、政治國防學

政治國防學ハ國防通學及ヒ日本聖戰學カ國防國策ヨリモ國防ソノモノノ
全体機構並ヒニ基幹ヲ扱フニ對シテ、國防國策上重要ナル諸方針ヲ生スル
重要ナル一肢體學ナリ。但シ茲ニ問題トサルルハ實踐機構モノモノニ非ス
、飽クマテモ「學」タル點ニ留意スルヲ要ス。而シテ政治國防學カ成立ス
ル爲ニハ、次ノ如キ諸學ノ成立ヲ條件トス。

一 日本政治學

二 日本國家學

政治國防學

三 日本國防通學

正シクハ日本政治學ノ成立ナクンハ政治國防學ノ成立ヲ得ス。然レトモ亦日本政治學ハ日本國家學ニ負ハサル可ラス。由來文化學内ニオイテ、政治學ノ如キハ複合性ヲ有スル爲ニ客觀的根柢ヲ與フルコト面倒ナリ。寧ロ多ク政治政策ノ方面ニ力點カ置カレ易シ。然ルニ若シ日本國家學ノ儼然タル成立ヲ見ハ、總テ又日本政治學ノ成立ヲモ見ルヘシ。政治國防學ハ方ニ日本政治學ノ成立ヲ前提トスルモノナリ。但シフランクエカ指摘セル如ク、戰爭史、國家學等ハ國防政治ニ取り參考トナルモノニシテ、ソノ間ニ混同アル可ラス。他面茲ニ欲セラルルハ國防ニ寄與スルモノトシテノ政治學ナレハ、國防通學ヲモ前提トス。ソレ等ノ前提下ニオイテノミ政治國防學モ成立シ得ヘシ。

備考

コノ觀點ヨリ直チニ明白ナル如ク政治國防學ノ建設ハ日本政治學者、日本國家學者、國防學者ノ協力ニヨリテ大成サルヘキモノトス。生レ出ツヘキハ全ク獨創的ナルヲ要ス。同時ニ又實學

タルヘク、依テ國防政治國策ヲ生ムヘキモノナラサル可ラス。

2. 政治國防學ハ次ノ如キ體系ヲ扱フヘシ。

(イ) 通論

(ロ) 内政國防學

(ハ) 外政國防學

(ニ) 政略國防學

3. 通論

一 意義

政治國防學カ如何ナル意義ヲ有スルヤハ、コノ學ニ取リテ第一ノ重大ナル役目ナリ。勿論大マカナルソノ意義ハ政治ニヨリテ國防ノ目的ヲ達スルニアレトモ、學トシテノ確乎タル定義ヲ與フル爲ニハ次ノ如キ段階ニオイテ扱フヲ要ス。

A、日本國家ノ本質ヲ明示スルコト

B、日本ニオケル政治ノ特質及ヒ行政機構ハ如何ナルモノカ理想型ナリヤヲ描キ出スコト

①、政治國防學ニ取りテ重要ナル役割ヲ果スハ

(甲) 民族（乃至ハ人種）政治學

(乙) 風土（乃至ハ地理）政治學

(丙) 政治國防史

ナリ。依テコレ等人時處ノ三學カ反映セラレタル明確ナル意義規定ヲ必要トス。

二 目的

國防目的カ動搖シ若シクハ明確ナラサル時ノ國防政治ハ脆弱ニシテ、ソノ目的カ不動ノ國是トシテ決定サレラル時ハ強力ナリ。而シテ日本國防通學ハ國防ノ目的ヲ決定セル筈ナルヲ以テ、コノ決定ニ即セル政治學上ノ目的ヲ鮮明ニスルコトカコノ節ノ役目ナリ。

備考

國防通學立論者ト十分ニ連絡ヲ取り、有機的關連ヲ有タセル必要アリ。

三 体制

有機系統

實學

内政
外政

方便學——政略

コノ体制下ニオイテハ内政對外政ノ展望並ヒニ有機的關連ヲ扱フコトカ第一ニシテ、コレハ政治國防學ニオケル實ノ例ヲ示シ、コノ實ニ對スル方便トシテノ政略ノ在リ得ルコト並ヒニ重ネテ實ノ方面ト方便ノ方面カ有機的關連ヲ有スル點ニ就キ詳述ヲ必要トス。

3. 内政國防學

内政國防學ハ通學ニオイテ求メラレタル國防目的ニ添フヘク國內政治ヲ革新シ且ツ總力的充實ヲ期スル爲ニ整然タル体系ヲ構成スルコトニ存ス。而シテ内政國防學ノ樹立ニ際シ最モ警戒スヘキハ、國防ヲ手段トシテ國家革新輪ヲ樹ツルコトナリ。苟クモ國防學ソノモノノ立場ニアリテハ、正ニソノ逆ニ非レハ却ツテ國家ソノモノノ前途ニ不安ヲ生セシムル恐レナシトセス。蓋シ内政國防トイフモ現在ノ世界情勢ヨリスル時ハ、外政國防ト不可分ノ關連ヲ有シ、政治上ノ革新モ對外關係ヲ廻ル國防ニ深刻ナル含ミアレ

ハ、國防ヲ中心トセル革新ノ外ニ在リ得ルモノナケレハナリ。コノ點極メテ含ミアルコトナレハ、何ヨリモ内政國防學ノ建設者ハ注意ヲ要ス。ソノ扱フヘキ内容ヲ大ツカミニ示セハ次ノ如シ。

- A. 國內政治ノ首腦部革新論
- B. 中央行政機構ノ革新論
- C. 地方行政機構ノ革新論
- D. 總力國防ノ爲ニスル内政形態
- E. 國家總動員法

A、
通論ハ國體、國家、日本ノ純政治形態ヲ重大ナル一内容トシテ扱フモノナレハ、茲ニハソレヲ前提トシテヨシ。而シテ國內政治ノ革新ニ對シ最モ重要ナルハ明治維新ノ完成マテノ再吟味ナリ。勿論加上法ニヨレハ「言有、時也」ニシテ、當時ノ國家事情ヲ無視シテハ吟味カ吟味トナラス。然レトモ現在ノ如キ大ナル缺陷ヲ生スルニ就イテ、ソノ維新ノ半面ニ缺クル處ナキヤヲ檢討スルハ大切ナリ。次ニ現在ノ内政ニ對スル缺陷ヲ一通リ吟味スヘシ。ソノ最大ノ缺陷ハ政

治組織カ資本主義的經濟組織ニ左右サレヲル事ナリ。コハ逆轉サセラレサル可ラス。由來政治カ斯克モ弱体トナレルハ、我カ建國以來ノ國是タル祭政一致ノ祭ヲ儀式化シ、崇高ナル日本精神ヲ沒却セルニ歸着ス。故ニ革新論ハ實質的意味ニオケル再度ノ大奉還並ヒニ天皇御親政ノ點ニ集中サルヲ要ス。日本國防學ニ取りテ最モ崇高ナル立論ハコノ邊リニ存スルコトヲ銘記スヘシ。而シテ御親政ヲ翼贊シ奉ルニ最高機構ノ設置ヲ要シ、祭、政、軍、敎、經濟ノ最高智能ヲ集メテ皇祖神ニ祈リ万全ヲ期スルノ道力拓カレサル可ラス。コノ道ニ對シテ深ク寄與スルハ例ヘハ佐藤信淵ノ如キナルヘシ。又、勿論輕々ニハ決セラレサレトモ、ソノヤウナル點ヨリシテノ、憲法ノ加上改正ヲ問題トスルニ至ルモ論ヲ俟タサルヘシ。

B、

中央行政機構ノ革新ハ、現在ノ機構ノ缺陷指摘ニ出發スヘシ。而シテソノ革新ニハ段階アレトモ、要ハ純有機体ノ姿ニソノ機構ヲ改メルニ盡キルヘシ。即チ天皇御親政組織ノ名實伴フ一元化ヲ、先ツ中央行政機構ヨリスルコトカ第一ナリトス。ソノ爲ニハ内閣改造力焦眉ノ問題ナルヘシ。在來ノ機構ニアリテハ、國策ノ有機性ニ最モ甚タシキ缺陷ヲ暴露スルト共ニ、本來ノ精神ヲ逸シ、徒ラニ未梢的ニ傾キヲレハナリ。ソノ改革ニハ色々ノ案カアリ、例ヘハ調查局或ヒ

ハコレト資源局ノ合併サレタル企劃院ノ機能並ヒニ權限ヲ擴大シ、全國策ヲココニ在リテ立論セシメ、無任所大臣ヲ置クトイフ如キモ一案ナレトモ、ソハ過度的ナル一實踐過程ニシテ、本來ハ恰モ信淵力説ケル垂統法ノ如クニ、有機的統制アル組織ヲ根幹トシテ考ヘサル可ラス。吾人ニヨレハ天皇御親政ノ輔翼最高機關ヲ望ミ、專斷ヲ斥ケル爲ニ五名位ノ最高ノ人物ヲ日本有機體國家ノ柱ニシ、心（祭、教）力（軍、政）物ノ三位一体乃至五位一体ノ統制府ヲ設置シ、ソノ下ニ各省ヲ置キ、省長ハソノ最高機關ヨリ供給サル國策ヲ直チニ實現シ得ルヤウ、省ノ全機能ヲ活動セシムル組織ヲ要ス。但シソレニ關スル立論ハ實踐ヲ主要目的トスルカ故ニ、理想形態ニ迄運フ段階——飛躍ハ一切ヲ毀スコトアルヘシ——ヲモ立論ニ加ヘサル可ラス。

地方行政機構ノ革新ハ中央行政機構ノ革新ト關連シテ企テラル。從ツテ前者ト後者ハ不可分ノ關係ニオイテ立論サルヘシ。而シテソノ革新ハ一面フ、アシズム、ナチズムニ學ビツツ、他面我カ國ノ先覺者佐藤信淵ニ加上ノ前段ヲ求ムルカ良シ。但シ日本ノ地方行政機構ハ上ヨリノ純有機的細胞組織ヲ求ムルコトカ焦點ナリ。例ヘハフアツシヨニオイテ都市町村毎ニ職業ニ應シテシ、ン、デ、ケ、ー、トヲ作り、コ、ン、シ、ン、デ、ケ、ー、トヲ地方的ニ集メテフエデレーシオンヲ又、フエデレー

シ、オンヲ集メテコンフェデレーシオントスル等ノ有機的組合組織ヲ作り全体ヲ組上ケテ行クコトハ我カ國ニオイテモ最モ大切ナルヲ、凡テハ上部中央構造ノ細微化トシテ求メラルル必要アリトス。況ンヤ總力國防ヲ目標トスルニ當リテハ、信淵ノ混同秘策及ヒ垂統法ニ現ハレタル如キ、中央統制ノ地方的反映乃至中央ヨリノ放射形態カ求メラレスハ不十分ナリトス。在來ノ府縣分類ノ不合理性ニ對スル新シキ大單位分類（十五位）ノ改造ノ如キモ全ク同様ナリ。又、現ニ我カ國トシテハ最モ缺陷ヲ暴露シツツアル都市對農村ノ背向カ、行政的ニ革新サル場合ニモ、放射行政ヲ以テセサル可ラス。更ニ、カカル意味ヨリ波及セル地方行政ノ有機的一元化ニ立論ノ重大ナル分區カ存在スルモノトス。

D

A、B、Cニオケル革新ハ一ニ總力國防ノ爲ニスルコトカ目的タルト同時ニ、ソレ自身國防ノ現實形態ニ規定サレサルヲ得ス。故ニ三革新カ國防目的ニ添フヘキ國內政治ノ形態ヲ論述スルハ政治國防學ニ取りテ頗ル大切ナル一内容タリ又國防國策ノ內政ニ關スル原理ハコノ邊リニ存ス。

E

昭和十三年四月一日ニ公布セラレタル總動員法ハ末タ不徹底ノ點モ尠カラス、サレト他面ヨリ見ル時劃期的革新ノ意義ヲ有ス。コレヲ總力國防ノ爲ニスル内政形態ト關連セシメツツ綿密ニ解剖シ、更ニソノ加上的理想形態ヲ描クハ重要ナル一内容タルヲ疑ハス。

備考

當研究所内ニオイテ所員力主トシテ扱フハDナルヘシ。A、B、Cニ及フモ必要ナレトモ、モシソノ暇ナカリセハ實力ト國家革新ノ氣ニ燃エタル助手若シクハ廊員ノ助力ヲ要スヘシ。軍ノ意向ニ深キ關連アル故、軍研究員ノ參加ヲ懇望セサル可ラス。國家總動員法ノ解剖ハ外部ニ出スモ可ナラン。

外政國防學

外政國防學ハ内政國防學ト不可分ノ關係アリ。コノ關係ハ通論カ扱フ所ナレハ、内政國防學ノ場合ト同様ニ假設シテ差支ヘナシ。扱フ所ハ次ノ如シ。

A 外政本質論

B 外政革新論

C 支那外交論

D 對ソ外交論

E 對英外交論

F 東亞聯盟及ヒ亞細亞聯邦政治論

G 日獨伊防共協定論及ヒ世界防共聯盟論

H 國際法及ヒ戰爭法規草新論

A、

我カ國外交ノ確乎タル方針ナキハ既ニ吾人ノ餘リニモ露骨ニ見セツケラレ來リシトコロナリ。ソハ國防ソノモノヲ危クスル重大ナル原因ヲナス。ソノ原因ハ本來日本外政カ一貫セル基本的意義ヲ所有セサル所ニアリ。依テ外政國防學ハ最モ大切ナル分野トシテ世界ヲ通スル一義性ヲ必要トス。而シテソノ内容ノ原動ハ八紘一字實學ニ存ス。ココニ本據ヲ求メ、絶エス八紘一字ノ精神ヲ實現スヘク國際關係ヲ對象トスルトコロニ儼然タル本質論ノ成立ヲ見ルヘシ。

B、

外政革新論ハ日本外政ノ本質ヲ基調トシ、現外務省ヲ廻ル一切ノ日本外交ヲ如何ニ革新スヘキヤニ就キ、明快ナル解答ヲ欲スルモノトス。革新ノ根本ハソノ非有機性ニ關ス。即チ國家ノ根

本方針ヲ十分ニ体セル外交ニ轉化セサル可ラス。ソノ爲ニ國家ノ首腦部並ヒニ中央行政機構ノ革新力反映セラレタル組織へ變更ノ要アリ。特ニ軍、政一元化論ノ如キ總力國防ノ見地ヨリ見テ最モ大切ナルモノタリ。

C、

外政革新ハ總テ何ヨリモ第一ニ支那外交ノ一元化ニ反映シ來ル筈ナリ。而シテコノ一元化ニハ、一日清役後ノ日支外交ノ動向、ニ支那ヲ廻ル對外政治ノ展望、ニ特ニ地理及ヒ人種政治學ノ觀點ヨリスル日支外交ノ將來性ヲ踏台トシ、ソノ上ニ不可動ノ外交方針カ立論サルルヲ要ス。

D、

國防ヲ中心トスル對ソ外交ハ極メテ重要ナリ。參考研究項目ハ次ノ如シ。

一、ソ聯極東政策ノ吟味

ニ、ソ聯國內政治ノ狀勢

三、政治上ヨリ見たル日ソ、戰論

四、國防上ヨリ見たル對ソ、政治方針ノ確立

一ハ極東ニ對スル赤色帝國主義政治ノ解剖ヲ主要内容トシ、二ハ國內政治ノ統制及ヒ危機ノ關

係ヲ扱ヒ、三八日ソ、戰不可避論並ヒニ政治上有、效ナル、可避論アリヤノ檢討ナリ。上記三ツヲ資料トシテ、確乎タル對ソ、外交方針ヲ規定スヘシ。目的ハ東亞ニ對スル赤色帝國主義ノ排撃ト平和來ニアレトモ、迂餘曲折アルハ外交ノ常ナレハ賢明ナル見透シト、但シ變リナキ國是ノ下ニ、對ソ、外交論ノ樹立ヲ必要トス。而シテコノ論ノ要旨ハ、日獨伊防共協定ニ戰爭カ否カノ鍵力存スヘシ。ソノ焦點ハ日獨同盟ニ存スル筈ナリ。

五、

對英外交論モ外政國防上極メテ重要ナリ。英吉利ハ世界ニ自國ヨリモ強力ナル國家カ生スルコトヲ警戒シ、生セントスレハ巧ミニ威壓ス。而モソノ鋒ハ強ク我カ國ニ向ヒツツアリ。依テ對英外交論モ慎重ニ樹テラルヘシ。扱ハルルハ次ノ如キ内容ナリトス。

一、極東及ヒ亞細亞ニオケル英吉利ノ政治ノ過去、現在及ヒ將來ノ展望

二、世界ニオケル英吉利政治ノ最近ノ動向及ヒソノ豫測

三、政治上ヨリ見たル日英戰論

四、國防上ヨリ見たル對英政治方針ノ確立

一ハ相當ニ綿密ナル解剖ヲ要ス。特ニ英吉利ノ極東及ヒ亞細亞ニオケル搾取ハ陰險極マルモノ

ナレハ、政治的ニ見タル白人帝國主義ノ解剖ハ極端ニ行フヘシ。而シテコノ解剖ハ獨リ支那及ヒ印度ニ留ラス、南洋、濠洲、西藏、ベルシヤ等ニモ及フ必要アリ。我カ國外交方針ノ内面ニオケル基本定立ニ取り、コノ定立ヲ確然タラシムルニ極メテ重要ナリ。但シ極東及ヒ亞細亞ニオケル英吉利ノ政治ハ、歐羅巴ノ急迫セル事情及ヒ亞米利加ノ動向トモ密接ナル關連ノ下ニアル故、二ノ點ニオイテモ相當ニ突込マレタル解剖ヲ必要トスルヤ論ヲ俟タス。而モ我カ國ノ根本方針ハ亞細亞特ニ近クハ東亞ノ大和ニ存スルカ故ニ、英吉利帝國主義ノ排撃ニ存スレハ、既ニ現在ニオイテ外交上戰端ヲ開始シラル次第ナリ。勿論外交ハ形式論理ニ非サレハ虛實ノ政略ヲ要スヘキモ、日英戰ニ確乎タル立論ヲセサル可ラサルハ論ナキトコロトス。斯クテ前記ニ論ヨリ國防ノ爲ニスル對英政治方針ノ長期觀望ヲ内在セル確立カ求メラルルヲ要トス。

茲ニコノ政治論ノ土台トナルハ皇道東亞學並ヒニ大亞細亞學ナリトス。而シテ東亞學ヲ土台トセル東亞聯盟政治論ハ次ノ如キ内容ヲ要スヘシ。

一 日滿政治ノ有機的一元強化論

ニ 支那維新政府ノ滿洲國家認論

三 支那君主論及ヒ聯邦論

四 蒙古獨立論及ヒ日滿支トノ聯盟論

五 政治的意味ニオケル日本ノ東亞盟主論

亞細亞聯邦政治論ノ内容ハ次ノ如キ諸立論ヲ要スヘシ。

一 歐米ノ亞細亞侵略政治ノ要義

二 日本及ヒ東亞聯盟ト亞細亞諸國ノ關連

三 亞細亞聯邦諸單位論ト日本ノ外政

四、

日獨伊防共協定ハ世界歴史ニ一轉機ヲ齎シツツアリ、我カ國國防政治ニ取リテモ最も重大ナル一項目ニ屬ス。又、獨リ日獨伊ノミナラス、空虛ト利己主義ニ終始シ居レル國際聯盟ニ對シ、ソレヲ更ニ擴張スヘキコトモ深キ問題ナリトス。扱ハルヘキトコロハ次ノ如シ。

一 日獨防共協定強化論

二 日伊防共協定及ヒ對英論

三 防共聯盟ノ世界的擴大ト強化論

五、

國際法及ヒ戰爭法規ハ多ク有名無實ニ傾キツツアレトモ、國防政治上ソノ研究ハ缺ク可ラサルモノトス。而シテ現在ハ尙機熟サスト雖モ、モシ十分ニ防共協定ノ強化ヲ見ハ、臆テソノ法規ニ對シ革新ノ聲ヲ生スル可能性アリ。日本外政ノ將來ニ對シテモ、頗ル興味ノ多キ問題ニ屬ス。扱ハルルトコロ次ノ如シ。

一 國際法及ヒ戰爭法規ト國防ヲ廻ル日本外政方針

二 防共協定ノ強化ト國際法及ヒ戰爭法規ノ革新論

備考

AトBハ研究所員ノ手ニヨリテ爲シ遂ケラレサル可ラス。且ツ問題ハ極メテ重要ナレハ、外交ニ明ルキ外廓員ノ協力ヲ求ムル必要アルヘシ。C、D、E、Fハ夫々適任者ヲ見出シ扱ハシムル力可ナリ。下ハ軍研究員日本國防通學立論者ノ協力ヲ要スヘシ。Gハ防共協定ニ精通セル外廓員ノ助力ヲ求メサル可ラサルモノトス。

五、政略國防學

正統政治國防學ハ上記内政及ヒ外政ニ盡ク。日本政治國防學トシテハソノ

外ニ在リ得サルモノナリ。故ニ國內政治ニ對シテハ極力、從來時々用ヒラレタル如キ方便的政略ヲ斥クヘキカ至當ニシテ、コレノミニテモ國防充實ニ大イナル役目ヲ果スヘシ。但シ正統政治ニ導ク方便トシテノ政略ハ、勿論存シ、活用サルルヲ要ス。然ルニ諸外國ノ政略ニオイテハ甚タシキモノアリ。依テコレニ對スル對策上、日本政治國防學ニオイテモソレヲ無視スル能ハス。但シソハ政治上ノ方便ニシテ斷シテ日本政治ノ眞實ニ非ス。云ハハ相手ノ政略ヲ喝破シ、コレニ對處シツツ眞實ヲ含ム政治ヲ行フヘシ。政略ニ政略ヲ加上スル外國政治ノ模倣ヲスル必要ナシ。只々政略ニ政略ヲ以テスル複雑化ヲ絞ルトコロニ儼然タル日本獨歩ノ強固ナル政治力在ルコトヲ忘ル可ラサルモノナリ。由來日本ノ政治ハ內政外政ノ如何ヲ問ハス、祭政一致ヲ理想トシ、武政一体ヲ力トシ、政經一如ヲ支力トス。絶エスコノ觀點ヲ喪失セサル意味ニオイテ政略ヲ問題トセサル可ラス。ソノ内容ハ次ノ如シ。

略 政

- (イ) 通論
- (ロ) 内政政略
- (ハ) 外政政略

- A 支那政略論
- B ソ聯政略論
- C 英吉利政略論
- D デ、チ、ス、フ、ア、ツ、シ、ヨ、宣傳論
- E 防宣傳論

政略ハ日本國防學ニオイテハ獨歩ノ意味ヲ有スルモノナレハ、通論ニオイテソノ本質ヲ鮮明ニ示ササル可ラス。既ニ神代戰ニオイテモ政略ノ問題ハ屢々出ツ。而モ日本の政略力單ナル技巧ニ非サルハ克明ナレハ、茲ニソノ説明ヲ要ス。勿論ソノ後ノ日本歴史ハ甚タシク政略法ヲ學ビ且ツ加上シタレトモ、聖戰ヲ廻ル政略ニノミ正シキ方便ノ意義カ存ス。方ニコノ意義カ克明ニサルヘク、特ニ謀略ニ對シテノ明確ナル規定ヲ要ス。由來日本人ハ政略ニオイテ巧ミナラスト稱セラル。然ラス。寧ロ潔シトセサルナリ。即チ政治力一面祭ト合致スヘキト同時ニ、他面尙武心ニ充サレアルコトカ、決シテ潔シトサセサルナリ。コノ邊ニ探リカ入レラレナハ、方便トシテノ政略論ハ含ミアル問題トシテ扱ハルル筈ナリ。次ニ、總力戰ニアリテハ重要ナル一項目

トシテ宣傳戰(或ヒハ意義カ更ニ廣ク取ラレタルカニ見ユル思想戰)アルモ、孰レモ案外日本
人ニ取りテハ奇妙ナル名前ニ屬ス。例ヘハ經濟戰ノ經濟力元ハ經濟國民トイフ味ノアル言葉ヨ
リ出タルニ對シ、味モ素氣モナキ模倣性ノ發露ナルカニ思ハル。吾人ノ見解ニヨレハ所謂宣傳
戰ノ下ニ包含サルモノハ、日本國防學體系ニアリテハ二分スヘシ。即チ宣傳戰ニオケル政略
ト切り離サレサル領野ハコノ項ニ含メ、爾餘ハ敎化國防學トシテ獨立サスヘキヲ妥當トス。ソ
ノ點ニ明快ナル立論アルヲ要ス。コレ(イ)ナリ。

內政政略ハ勿論國防ノ爲ニスル內政ニ關連シテノ政略ノコトナリ。本來ヨリ云ヘハ清介質直ヲ
本性トスル吾人ヨリハ國內政治上及フ限り政略ヲ斥クヘキヲ至當トス。然レトモ亦特ニ外來ノ
政略ハ深ク國內ニモ浸潤セリ。依テ方便上止ムナク內政政略ノコトカ問題ニサレサルヲ得ス。
但シ眞實ニ歸着スヘキ政略以外ハ斷シテ立論内ニ入ルル可ラス。否寧ロソノ排撃ヲスラ説クヘ
キモノトス。

外政政略ノ諸項ニオイテ扱ハルヘキ要旨ハ次ノ如シ。

A

支那ハ武ノ國ヨリモ文、政治、宣傳ノ國ナリ。而シテソノ一面ハ政治ト道德カ深く結合サレ、

大衆化サレタル面子ニ迄現ハレタレトモ、他面ニオイテ政略、宣傳ノ方面カ異常ニ發達セル國ナリ。故ニ、政略國防學ノ觀點ニ立ツ時、支那政略論ヲ立ツルコトハ頗ル重大ナル意義ヲ有ス。扱ハルルトコロ次ノ如シ。

一 自然環境ニ歸因スル支那政略

二 民族性ニ歸因スル支那政略

三 支那政略史略論

四 現在ニオケル支那宣傳論

五 日本國防及ヒ支那經綸ヨリ見タル對支政略及ヒ宣傳論

B

ソ聯ノ政略、宣傳モ亦頗ル巧妙ナリ。次ノ如キ内容ヲ扱フカ重要。

一 赤化政略及ヒ宣傳ノ解剖

二 極東ニオケル赤化宣傳ノ真相

三 白系露人ニ對スル政略論

四 外蒙ニ對スル政略論

赤化政略及ヒ宣傳ニ對スル國防政略論

英吉利ノ政略及ヒ宣傳ハ謀略或ヒハ惡略ト稱スルニモ適シカルヘシ。次ノ如キ内容ヲ扱フモノトス。

一 印度、支那、南洋、西藏、ヘルシヤ等ニオケル英吉利政略ノ解剖

二 對日英吉利政略史

三 對英政略論

三モ必要トス。蓋シ現ニ我カ國ハ支那問題ヲ介シテ間接乍ラ長期ノ戰ニ入り、國防ソノモノニアリテモ重要極ル故ナリ。特ニ深重ナル警戒ヲ要ス。

D

特ニ宣傳國防ノ觀點ヨリ、他山ノ石トシテ學フヘキトコロ尠カラス。扱フヘキ點次ノ如シ。

一 ナチス宣傳論

二 フアツシヨ宣傳論

三 日獨伊協同宣傳論

Ⅱ

由來政略トイヒ宣傳ト稱スルモ、深ク國民性ト傳統ト國勢ニ原因ヲ有ス。支那、ソ聯、英吉利ハイフ迄モナク、ナチス、ファツシヨモ同様ナリ。然ラハ日本國防ノ爲ニスル、外政政略ノ觀點下ニオケル諸外國ノ宣傳ニ對スル洞察モ、コレ等ニ對スル對策モ、表面ノミヲ見ス、底ヨリ熟考スル必要アリ。又技術ノ研究ハ特ニ必要ナルモノトス。扱フ内容ハ次ノ如シ。

一 國民性、傳統、國勢ヨリ見タル宣傳論

二 協同宣傳論

三 國防宣傳技術論

備考

(イ)ハ當所研究員ノ手ニナラサル可ラス。(ロ)ハ政略及ヒ宣傳ノ研究者ニ依屬スルモ可ナリ。(ハ)ニオケルA、B、C、Dハ適任者ニ依屬スヘシ。Ⅱハ當所研究員ノ當事者カ立論スヘキヲ妥當トス。

101

2682